

聖霊降臨節第二十一主日礼拝

《主日朝礼拝式次第》

【入祭の部】

前 奏（黙祷）
「ホ長調フーガ」
J.S.バッハ作曲

あいさつ
讃 美 讃美歌 21/50 番
開会の祈り
交読詩篇 詩編 9 篇 8～11 節

【第一部 み言葉の礼拝】

聖 書
✚使徒言行録 20 章 18～24 節
✚ルカによる福音書 13 章 22～30 節
(新約 P.254、P.135)

応 答 唱 讃美歌 21/46 番
教 話 井上隆晶牧師
『狭い戸口から入れ』

使徒信条

【第二部 聖餐礼拝】

奉 献 讃美歌 21/72 番
教会の祈り（連祷）
平和の挨拶
讃 栄 讃美歌 21/83 番
主のいのり
陪 餐

【応答と派遣と祝福】

讃 美 讃美歌 21/536 番
感謝の献物
栄光の讃美 讃美歌 21/24 番
派遣の言葉
祝福の祈り 井上隆晶恵牧師
後 奏（黙祷）
コラール「天にまします我らの父よ」
J.S.バッハ作曲

【本日の礼拝奉仕者】

司式補佐 勝見 仁
奏 楽 鹿野幸枝
献金当番 相澤美子
受付当番 上野清之

【本日の予定】

◇教会学校（朝 9 時 30 分）
・お話し：井上隆晶牧師
◇讃美歌練習（礼拝後）
◇合同祈祷会（礼拝後）
◇教会学校教師会（礼拝後）

【今週の教会での集会のご案内】

◇朝の祈祷会
・10 月 13 日（火）午前 9 時
・10 月 14 日（水）午前 9 時
・10 月 16 日（金）午前 9 時
✚祈祷会の後、教会掃除をします。
◇英語での祈祷会
・10 月 15 日（木）午後 7 時 30 分

【次週主日 1 0 月 1 8 日ご案内】

◇教会学校礼拝（午前 9 時 30 分）
・お話し：小坪英恵
◇主日朝礼拝（午前 10 時 30 分）
・聖 書
✚ I コリント 3：10～13、16～17
✚ルカ 11：20～26
・教 話 井上隆晶牧師
『空き家の危険性』

・讃美歌 21 17、46、457
・交読詩篇 詩編 10：12～18
・司式補佐 澤田昌人
・奏 楽 飯田雅子
・献金当番 松本貴子
・受付当番 畑耕太郎
◇讃美歌練習（礼拝後）
◇合同祈祷会（礼拝後）
◇大掃除（午後 1 時）

聖 句

「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。」

（ルカ 13 章 24 節）

【諸報告・個人消息】

- ①《今週の井上牧師の予定》：13 日（火）午後 1 時「施設連絡会」、16 日（金）午後 1 時「大宮保育園園職員礼拝」
- ②《10 月の教会行事予定》
- 10 月 11 日（日）礼拝後「教会学校教師会」
- 10 月 12 日（月・祝）「教会学校 day キャンプ」
- 10 月 18 日（日）礼拝後「教会大掃除」（昼食は各自で持参する）
- 10 月 20 日（火）午前 10 時「心の病の勉強会」
- 10 月 25 日（日）午後 1 時「宣教協議会（会堂建築について）」（食事は第二グループ）
- 10 月 26 日（月）午後 1 時 30 分「シャロン千里礼拝」
- ③【先週の集会統計】

日	集 会	男	女	大人	計	礼拝献金
4	CS 礼拝	—	—	4	4	¥2,100
	集 会	男	女	子ども	計	礼拝献金
4	朝の礼拝	7	12	3	22	¥12,100
6	朝の祈り	3	3		6	
7	朝の祈り	—	—	—	—	
9	朝の祈り	3	3		6	

- ④【1 0 / 4 の献金報告】
- 〔月定〕井上隆晶、相澤美子、飯田雅子、井上万里子、井上朝子、井上聖一朗、上野清之、上野秀子、勝見仁、澤田昌人、澤田真弓、鹿野幸枝、畑季史子、畑真理奈、菱田朱美、三山幸子、山千代憲一、山千代誠子（計 120,500 円）〔感謝〕井上隆晶、畑季史、中村恵子（計 105,400 円）〔建築〕井上隆晶、飯田雅子、井上万里子、澤田昌人、澤田真弓、畑季史子、畑真理奈、三山幸子（計 26,500 円）〔互助〕井上隆晶、井上万里子、澤田昌人、澤田真弓、鹿野幸枝（計 9,000 円）
- ⑤ホームレス支援のために、男性用の新品の T シャツ、ズボン（M～L サイズ）がありましたら寄贈をお願いします。また、カップラーメン、カップ飯の寄贈もお願いいたします。

【週報表紙の続き】

直感で分かっていたのだと思います。いくら科学が進歩し、医学が発展しても、科学では所詮この肉体という魂の入れ物をいじくって修理するだけのことであって、人間というものを知ること、生まれて来る意味を解明することも出来ないのです。

この世には目的はありません。蟬は土の中で 10 年ほど暮らしますが、それは土の中で生きることを目的としているのではなく、土から出て殻を破り、新しい体を得て空を自由に飛ぶために生まれて来るのです。それと同じように、人間もこの世で生きることが目的なのではなく、この世を出て、古い入れ物である肉体という殻を破り、もっと優れた天的な体を得て、自由に天の国で生きるために生まれて来るのです。人は復活するために生まれるのです。この世にどっぷりと浸かってしまうと、つまりこの世の物でいっぱいだと神の霊は人の中に入れません。だから断食し、節制し、この世の物を捨てて身軽になると、神のものが入って来るのでその人の魂は澄んできて、どんどん神のことが見えるようになるのです。キリスト教徒というのは、この世の肉体という器の中に、人間の魂と神の霊（聖霊）の二つが住む人のことです。

昔の教父たちは「神は、人間の中に永遠に住む練習をされる」と言っています。この神の霊を持っている者と、持っていない者では運命は変わってしまうのです。私たちはこの土の器の中に神を入れなければなりません。キリストの弟子とは、この世の物を頼りにするのではなく、キリストを頼りにする者です。最後は自分も頼りにはなりません。計算を誤ってはなりません。私たち人間やこの世には人を救う力はないのです。「人間に頼るのをやめよ。鼻で息をしているだけの者に。」（イザヤ 2:22）どうか皆さんがキリストを頼りとし、しっかりとキリストの霊が住む、住まいとなって欲しいと願います。